

<事務局便り>

平成22年度炉物理部会運営委員

氏名	役職	所属
吉田 正	部会長 (任期1年)	東京都市大学
佐治 悦郎	副部会長 (任期1年)	三菱重工業
羽倉 尚人	庶務幹事 (任期1年)	日立GEニュークリアエナジィ
松本 英樹	庶務幹事 (任期2年)	三菱重工業
岩崎 智彦	部会等運営委員会担当運営委員	東北大学
山本 俊弘	編集委員会担当運営委員	京都大学
奥村 啓介	HP担当幹事	原子力機構
小嶋 健介	HP担当幹事	原子力機構
左藤 大介	財務小委員会担当幹事 (任期1年)	三菱重工業
西原 健司	財務小委員会担当幹事 (任期2年)	原子力機構
根岸 孝行	編集小委員会担当幹事 (任期1年)	原電情報システム
杉村 直紀	編集小委員会担当幹事 (任期2年)	原子力エンジニアリング
佐治 悦郎	セミナー小委員会担当幹事 (任期1年)	三菱重工業
松本 英樹	セミナー小委員会担当幹事 (任期1年)	三菱重工業
千葉 豪	学術交流小委員会担当幹事 (任期1年)	原子力機構
渡嘉敷 幹郎	学術交流小委員会担当幹事 (任期2年)	原子燃料工業
佐野 忠史	学生・若手小委員会担当幹事 (任期1年)	京都大学
中里 道	学生・若手小委員会担当幹事 (任期2年)	三菱重工業

編集小委員会からの御願い

部会報に対するご意見・ご要望などがございましたら、編集小委員会までお知らせ下さい。また、部会報の原稿として、「部会員の声(自由投稿欄): 内容不問で自由に投稿・意見を述べられる場」を常時募集しています。また、部会ニュース(ホームページに掲載)の原稿もございましたらお知らせください。

連絡先：編集小委員会(会報担当)

根岸 孝行 t-negishi@gisc.co.jp

杉村 直紀 nsugimura@neltd.co.jp

炉物理部会員の名簿は、日本原子力学会の名簿に基づいて作成しております。学会名簿は、部会報の郵送、部会メーリングリストの発信先Eメールアドレスなどに使用されます。勤務先、メールアドレス等に変更がある場合には、速やかに日本原子力学会に登録情報の変更手続きをして頂くようお願いいたします。変更手続きは、以下のURLからオンラインで申請が可能です。

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/aesj/member/henkou.html>

日本原子力学会炉物理部会第 33 回総会議事録

平成 22 年 4 月 7 日

日時：平成 22 年 3 月 27 日 (土) 12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2010 春の年会 G 会場 (茨城大学 共通教育棟 2 号館 26 講義室)

配布資料

- 33-1：炉物理部会規約の改定の提案
- 33-2：炉物理部会「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会の継続について
- 33-3：平成 21 年度炉物理部会収支報告
- 33-4：平成 22 年度炉物理部会運営委員案
- 33-5：平成 22 年度炉物理部会収支予算案
- 33-6：学会新法人化の概要
- 33-7：炉物理部会主催 平成 22 年度炉物理夏期セミナーの開催予定 (案)
- 33-8：第 5 回日韓サマースクールについて

議事

平成 21 年度下期活動報告と提案

1. 平成 21 年度 (第 3 回) 炉物理部会賞の報告
 - 1 月に再募集したところ応募があり、選考委員会による審査の結果、以下の 2 件に受賞が決定したことが肥田部会長より報告された。引き続き表彰式が行なわれた。
 - 東京工業大学 竹澤宏樹氏
「低濃縮ウランを用いた原子炉励起レーザー発振実験用結合炉の核設計に関する研究」
 - 京都大学 佐野忠史氏
「核特性予測精度向上に関する研究」
2. 炉物理部会規約の改定 (配布資料 33-1)

原子力学会の新法人移行に伴う規程類体系化の一環として、企画委員会・部会等運営委員会規程類合同検討 WG で作成された雛型に沿った炉物理部会規約の改定が、肥田部会長より提案され、審議の結果、承認された。ただし、本改定により「運営委員会」が「運営小委員会」に変更されるが、関連する炉物理部会内規、炉物理部会運営委員会内規、部会表彰規定では、これらを改定するまでの間、「運営委員会」を「運営小委員会」と読み替えることを条件とする。
3. 「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会の活動報告と提案 (配布資料 33-2)

これまで 2 年間活動してきた、原子力学会「アクチノイド・マネジメントに関する炉物理実験施設」研究専門委員会と炉物理部会「次世代炉物理実験施設活用方策」検討会は今年度末で終了するが、後者について、中速および熱中性子スペクトルを中心とした検討会の継続が岩崎主査より提案され、審議の結果、承認された。

4. 平成 21 年度予算実績報告 (配布資料 33-3)
最新の実績が卜運営委員から報告された。新たな事項として、学会の新法人化に伴い、繰越金の 10%を IT 化基金として学会に収めることになった。旅費など今後計上されてくるものがあるため、最終的な決算の承認は、秋の大会の総会で行われる。
5. 「炉物理の研究」第 62 号の発行状況
炉物理部会報「炉物理の研究」第 62 号がほぼ完成し、近々部会ホームページに掲載される予定であることが、渡邊運営委員より報告された。
6. その他、炉物理部会活動として、以下の 2 件が肥田部会長から報告された。
 - 秋の大会企画セッション「新検査制度導入と炉心設計」が学会誌 5 月号に掲載予定。
 - 日本原子力学会平成 22 年度フェローに青木克忠氏 (平成 11 年度炉物理部会長) が決定。

平成 22 年度活動計画

7. 平成 22 年度炉物理部会運営委員の選出 (配布資料 33-4)
平成 22 年度炉物理部会運営委員案が肥田部会長より紹介され、承認された。以降の議事は、東京都市大学教授の吉田新部会長により進行された。
8. 平成 22 年度予算案 (配布資料 33-5)
平成 22 年度の予算案が左藤運営委員より提示され、審議の結果、承認された。平成 22 年度は日韓合同セッション・日韓サマースクールが韓国で開催される予定であり、旅費および旅費補助として 60 万円が計上されている。なお、PHYSOR2014 の日本開催が確定した場合には別途予算措置が必要であり、PHYSOR の誘致にあたって開催の 2 年前にコンペが行われるため 2011 年から準備をスタートする必要がある。
9. 学会新法人化の概要 (配布資料 33-6)
法改正に伴い原子力学会は、2013 年に社団法人から一般社団法人に移行する予定である。移行に伴って、内部統制の強化、残余財産の公益目的使用、部会/支部の繰越金の学会管理への移管等が実施されることが、卜運営委員から紹介された。
10. 第 42 回炉物理夏期セミナーの企画 (配布資料 33-7)
炉物理夏期セミナーの企画案が佐治副部会長から紹介された。「高速炉の炉物理・軽水炉の炉物理」(案)をテーマに 8 月 4 日～6 日に岡山県吹上温泉で開催の予定。
11. 第 5 回日韓サマースクールの計画 (配布資料 33-8)
日本原子力学会 4 部会と韓国原子力学会による合同サマースクールが、2010 年 7 月最終週に韓国で開催される予定であることが、伊藤運営委員から紹介された。

以上

日本原子力学会炉物理部会第34回総会 議事録

平成23年03月04日

日時：平成22年9月16日(木) 12:00-13:00

場所：日本原子力学会 2010 秋の大会 Q 会場
(北海道大学 情報科学研究科棟 A-33 講義室)

1. 炉物理部会賞贈呈式 吉田部会長

第四回炉物理部会賞として、日本原子力研究開発機構の菅原隆徳氏「MA 装荷臨界実験による核変換システムの炉物理パラメータに含まれる不確かさの低減可能性に関する解析的研究」が受賞され、部会賞及び副賞の贈呈式が行われた。

2. H21 年度予算変更の報告 ... 財務小委員会担当幹事

第31回会員総会にて承認された平成21年度予算に対して学会理事会の査定が行われたため、運営委員会で検討のうえ以下のように修正し、理事会承認を得たことが報告された。

	部会申請	理事会査定	部会再申請
通信運搬費：	10,000	2,000	5,000
助成金：	270,000	0	0
その他支出：	70,000	60,000	60,000

平成21年度炉物理部会収支報告(配布資料34-(2)-1)

平成22年度炉物理部会収支報告(6月末実績)(配布資料34-(2)-2)

3. 第41回炉物理夏期セミナーの報告 ... セミナー小委員会担当幹事

セミナー幹事から実施報告と会計報告が行われた。また、次期幹事については交渉中との報告があった。

平成21年度炉物理夏期セミナー報告(配布資料34-(3)-1)

4. 日韓学生・若手セミナー活動の紹介 ... 学術研究交流小委員会担当幹事

7/26-30に韓国にて4部会合同日韓サマースクールが開催された。部会からは山本先生(京大炉、講師を担当)と学生二名(東工大、京大炉)が参加した。ポスターセッションではこの学生二名がポスター賞を受賞した模様である。詳細は配布資料34-(4)-1を参照されたい。次回は2012年の8月下旬か9月上旬に日本にて行う予定とのこと、また、来年度春に韓国にて、核データ・炉物理の日韓合同セッションが行われる予定であることが報告された。

第5回4部会合同日韓サマースクールの報告 (配布資料34-(4)-1)

5. 部会内規の改訂

吉田部会長

日本原子力学会「炉物理部会」規約に関し、8月25日の部会等運営委員会で全部会を通して更なる修正が求められているとの報告があり、これを受けた再修正版案について説明があり、了承された。

部会規約修正案

6. その他

吉田部会長

- GLOBAL2011 (日本での開催) 組織委員会第2回開催 (6月9日)

開催まで毎年の部会長が就任しており、慣例に則り、今回より肥田前部会長に変わり現吉田部会長が出席する旨の報告があった。

以上

編集後記

2011年3月11に発生した東北地方太平洋沖地震の被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますことを心からお祈り申し上げます。

平成22年度の「炉物理の研究(第63号)」の編集も無事終了し、会員の皆様のお手元にお届けできることができ、原稿の執筆にご協力頂いた方々に心からお礼申し上げます。

本会報では、特に特集記事に力を入れております。特集1では、日本原子力研究開発機構の鈴木殿から平成22年5月に性能試験を再開した「もんじゅ」の確認試験報告を、特集2では、「炉物理研究との出会い!」という企画を立ち上げ、今を活躍する研究者の方々から「自身の体験」を紹介して頂くことができ、執筆者の皆様の協力によって非常に充実した特集記事になったと思います。

また、本号では、日本原子力研究開発機構の千葉殿から自由投稿欄への投稿があり、炉物理部会報の更なる充実に貢献して頂きました。このような炉物理部会員の方々からの自由投稿は、良い刺激となり炉物理分野の活性化に繋がると思いますので、今後も部会員の皆様には積極的に投稿して頂ければと思います。

私事で恐縮ですが、今回、私が編集小委員を引き受けた背景には、技術士(原子力・放射線部門)の取得というきっかけがあり、技術士の継続的研鑽の一貫として、多くの方と出会い、幅広い知識を習得することを目的に運営委員会に参加することを決めました。運営委員に参加して得られた経験は大きく、忘れがちな日々の継続的研鑽の大切さを再認識することができ、今後は、この経験を生かし、炉物理部会の発展や日本の原子力の発展と復興に貢献して行きたいと思っております。

最後になりますが、「炉物理の研究(第63号)」がより多くの方々に興味を持って頂ければ幸いです。

(編集小委員会：根岸 孝行)